美術科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	美術科	学年・組	第１学年１組	場所	４階 第１美術室
単元名	A表現・絵に表す　（漫画表現）				（第１時／全３時）
本時の目標	・漫画表現には、どのような工夫がされているかを理解する。 ・漫画における日本及び諸外国の独特な表現形式から、日本独自の表現を知る。				
本時の評価規準	・漫画表現の特徴を理解し、漫符を組み合わせる事により、イメージをわかりやすく表現できることを理解している。 ・イメージを表現するために、記号や文字、形の組み合わせや画面上の配置などを考え構想している。 ・漫画表現を用いてイメージを表現し鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。				
本時の判断基準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて	
	思考・判断・表現	漫画表現の特徴を理解し、漫符を組み合わせイメージ表現できている。	漫符を用いた表現を理解し表現できている。	楽しんで説明を聞けるよう資料提示に工夫する。	
	主体的に学習に取り組む態度	漫符を組み合わせてイメージを表現し他者の意見も取り入れ表現できている。	漫符を用いてイメージを表現できている。	資料を参考にして描くよう支援する。	

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	複数の漫画表現を比べ、伝えたいことを効果的に表す工夫を見つけよう【探究・思考型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	身近にあふれる漫画表現。形を単純化し、象徴化、誇張する事が表現の特徴として挙げられる。その優れた情報伝達力は文章の二倍ともいわれ、わかりやすい表現であるが、それゆえ実際に表現を行うには高度な能力が必要となる。 諸外国の漫画表現と日本の漫画表現を比較し、日本の漫画表現の特色（イラストや絵画との違い）を理解させ、ワークシートを用いて、漫画のキャラクター以外の構成要素（※漫符、オノマトペ、フキダシなど）を順に考えさせ、説明し漫画表現の特色を分解整理して、ヒトコマを完成させる事で、漫画表現が出来る事を体験させ漫画表現の力と可能性、そして楽しさを体験させたい。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

・漫画ならではの表現（漫符）を理解することができた。

・漫符を使用することで、どんなものを描いても感情を表現できることがわかった

・日本以外の漫画表現を知り、日本漫画の表現を知ることができた。

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漫画表現の特徴を理解し、適切な漫符などを組み合わせる事により、自分のイメージをわかりやすく表現できることを理解している。	・作品のテーマを表現するために、漫符や文字、形の組み合わせや画面上の配置などを考え構想している。 ・作品のよさを感じ取り、どのような工夫や意図で表現されているかを考え、見方や感じ方を広げられている。	・表現活動の喜びを味わい、漫画表現を用いてイメージを表現したり鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

４．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点	時	学習内容	評価の観点
1 本時	海外と日本の漫画表現を紹介、比較し、漫画表現の特徴を交流し考える。漫符についてワークシートを使い発想し、発表交流する。	知識・技能 思考・判断	3	絵画やデザイン、映像表現における漫画的表現を紹介。絵巻物も鑑賞し、表現の移り変わり歴史の連続性を知り見方を広げる。	知識・技能 思考・判断
2	レタリング授業での内容も振り返り、日常生活から発想しオリジナルオノマトペを制作する。	思考・判断 主体的			

５．本時の学習過程

	学習活動	主な指導（◎）と支援（○）、 言語活動への働きかけ（◆）	評価の観点 （評価方法）
	めあて：複数の漫画表現を比べ、伝えたいことを効果的に表す工夫を見つけよう		
導入 （１５分）	諸外国の漫画表現と日本の漫画表現を鑑賞し比較する	◎外国の漫画表現を提示し、生徒に問いかける。 ◆意見をひろいあげ理由を聞く ◎日本の漫画を提示し、外国の漫画との表現の違いを問いかける。 ○「動きがある」などの結論がでるよう、生徒の意見を誘発する。	諸外国の漫画表現と日本の漫画表現を比較し自分なりの考えを伝えることができたか（思）
展開１ （１０分）	ワークシートに取り組み漫画表現について考えてみる	◆ワークシートを配布する。 ○ワークシートには簡単なイラストと感情や状態を表す言葉が印刷されている。文字を描き入れない制限をもうけ、自由に発想させ描かせる。	言葉をつかわず絵の力だけで、感情や状態などが伝わるよう試行錯誤する（思）

展開２ （１０分）	ワークシートに取り組み一コマを完成させていく。	◆ワークシートを進めていくよう指示する。 〇机間巡視、アイデアやタブレット操作など生徒が必要とする支援を行う。	
まとめ （１５分）	共有された作品を鑑賞する。 ・漫符について理解する。 本時の振り返り ・漫画表現をどのように使ったか、工夫した部分と効果を説明しましょう	◎出来上がったものからタブレット端末を用いて共有させ、ある程度の作品が揃った段階で紹介していく。 ◆とくに個性的な表現をとりあげ、工夫を聞き批評する。 ◎一般的な漫符表現を紹介し、漫符の説明をする。漫符表現の、映像やポスターへの活用も紹介し、漫画表現の力を知る。	日本の漫画表現の特徴のひとつである漫符について知り、理解することができたか（知） 漫画表現をどのように使ったか、工夫した部分と効果を説明しましょう

国語科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

<table>
<tr><td>教科</td><td>国語科</td><td>学年・組</td><td>第１学年２組</td><td>場所</td><td colspan="2">第１学年２組教室</td></tr>
<tr><td>単元名</td><td colspan="6">今に生きる言葉　『矛盾』　（第１時／全２時）</td></tr>
<tr><td>本時の目標</td><td colspan="6">・漢文を音読し、漢文特有のリズムや言い回しに親しむことができる。
・文章中の表現を根拠に、盾と矛を売る人が質問に答えられなかった理由を考え、交流を通して読みを深めて自分の言葉で説明することができる。</td></tr>
<tr><td>本時の評価規準</td><td colspan="6">・積極的に漢文を音読し、漢文のリズムや言い回しに親しもうとしている。
・文章中の具体的な表現に着目し、商人が答えられなかった理由を考え、他者との交流を通して自分の考えを深め、説明している。
・故事成語の成り立ちや意味を理解し、書き下し文と現代語訳を照らし合わせて内容を捉えている。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">本時の判断基準</td><td>評価の観点</td><td>A：十分満足できる</td><td>B：おおむね満足できる</td><td colspan="2">支援を要する生徒へのてだて</td></tr>
<tr><td>思考・判断・表現</td><td>文章中の具体的な表現（二つのセリフの食い違いや結末の描写など）を根拠にして商人が答えられなかった理由を説明し、他者との交流を踏まえて自分の考えを深めたり更新したりしている。</td><td>文章中の表現に着目して商人が答えられなかった理由を考え、自分の言葉で説明している。</td><td colspan="2">「吾が盾の〜」「吾が矛の〜」などの具体的な発言に着目させ、何と何が矛盾しているのかをワークシートで整理できるよう働きかける。また、交流で出た仲間の着眼点を参考に自分の考えを補足できるよう支援する。</td></tr>
<tr><td>主体的に学習に取り組む態度</td><td>ペア活動の音読に進んで取り組み、漢文特有のリズムを確かめ、古典に親しんでいる。</td><td>ペア活動の音読に取り組み、漢文の読みのリズムに気づき、古典に親しむ姿勢がみられる。</td><td colspan="2">ペアで繰り返し音読するよう働きかけ、漢文特有の読み方やリズムに気づき、声に出して読む楽しさを感じられるよう支援する。</td></tr>
</table>

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	文章中の表現を根拠に、商人が答えられなかった理由について自分の考えを説明しよう。 【探究・思考型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	単元を通して、「様々な故事成語の意味を理解し、正しく使えるようになる」ことをめざした言語活動を設定する。本学級では、事前に『蓬莱の玉の枝―「竹取物語」から』を学習し、古典特有の表現や読み方に触れてきた。漢文は中学生になって初めて学習するため、ペアになって互いに確認し合いながら繰り返し音読することで、漢文特有の言い回しやリズムに慣れ親しませ、古典学習への意欲につなげたい。 本時では、商人が質問に答えられなかった理由について、単に「分かったこと」を述べるにとどまらず、「本文中のどの言葉・表現に着目したのか」という根拠を明確にして自分の考えを形成させる。さらに、ペアや全体での交流を通して多様な着眼点や解釈に触れさせ、自分の読みを深めたり更新したりする過程を重視する。振り返りでは、めあてに対応させ、「着目した表現」「そこから考えた理由」「交流によって考えがどう深まったか・変わったか」を自己評価とともに記述させることで、思考力・表現力の確実な定着を図る。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

「私は、商人の『吾が盾の堅きこと、能く陥すもの無きなり』と『吾が矛の利なること、物において陥さざる無きなり』という二つのセリフ（表現）に着目しました。何でも突き通す矛と絶対に防ぐ盾が同時に存在することは論理的におかしいので、質問に答えられなかったのだと考えました。その後の交流で、A さんの『商人が「応ふる能はざるなり（答えられなかった）」という沈黙の表現』に着目した意見を聞き、商人は売るためにその場の勢いで誇張してしまい、取り返しのつかない状況に追い込まれていたという人物の心理まで考えを広げることができました。文章の言葉を根拠にして、自分の考えをしっかりと説明できたと思います。」

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢文特有のリズムを確かめ、様々な故事成語の意味について理解できている。	文章中の表現を根拠に考え、他者との交流を通して自分の考えを深め、説明したり書いたりすることができている。	言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。

４．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点
1 本時	文章中の表現を根拠に、商人が質問に答えられなかった理由を考え、交流を通して読みを深めて説明しよう。	「矛盾」の意味を本文から理解し、短文を書くことができている。
2	様々な故事成語の意味を調べ、自分の生活と結び付けて文章を書く。	国語便覧から様々な故事成語を知り、自分の体験と結び付けて文章を書くことができている。

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
導入 （３分）	ペアで好きな言葉・座右の銘など紹介しあう。	具体例を示し、言葉に込められた思いや理由も伝えるよう促す。	ペア活動に積極的に参加しているか。（主体的に学習に取り組む態度）
	①「今に生きる言葉」を読み、故事成語とはなにか理解する。 めあての確認	中国の歴史に由来し、古くから伝えられてきたたとえ話やエピソードをもとにしていることをおさえる。	故事成語とはなにか理解できている。（知識・技能）
めあて：文章中の表現を根拠に、商人が答えられなかった理由について自分の考えを説明しよう。			
（１４分） ①７分 ②７分	②『矛盾』をペアで音読（2回ずつ読む）。 ・1回目：現代仮名遣いに直す部分に注意して正しく読む。 ・2回目：文章の意味を考え、句切りや強調を意識して読む。	本文の範読をし、読み方をまねして音読させる。 聞く側の人は、チェックをし、よかったポイントを伝える。	ペア活動の音読に進んで取り組み、漢文特有のリズムを確かめ、古典に親しんでいる。 （主体的に学習に取り組む態度）
展開２ （１５分） ①・②8分 ③7分	①書き下し文と現代語訳を読み取り、故事を捉える。 ②商人が質問に答えられなかった理由を、「どの表現に着目したか」とともにワークシートに記述する。 ③【ペア・全体交流】 自分が根拠とした表現と理由を共有し、仲間の着眼点を取り入れて読みを深める。	書き下し文と現代語訳を照らし合わせ、登場人物の発言や故事の展開を正確に読み取らせる。 二つの発言（「能く陥すもの無きなり」「陥さざる無きなり」）の食い違いに着目させる。 理由だけでなく、必ず本文中の言葉にサイドラインを引かせ、根拠として引用させる。 自分と異なる表現（商人の沈黙や態度の描写、客の問いかけなど）に着目した意見にも耳を傾けさせ、思考を広げさせる。	書き下し文と現代語訳を照らし合わせながら、故事の内容や展開を読み取っている。（知識・技能） 商人が質問に答えられなかった理由を、二つの発言の食い違いに着目して考え、自分の言葉で説明している。（ワークシート・発言）（思考力・判断力・表現力）

まとめ （１８分） ①9分 ②9分	①【振り返りシートの記入】 以下の項目に沿って記述する。 1. 着目した文章中の表現（根拠） 2. そこから考えた理由 3. 交流によって深まった・変わったこと 4. 本時のめあてに対する自己評価 ② 数名の振り返りを共有し、現代にも通じる「矛盾」の意味と教訓を確かめ、まとめる。 （※発展として「矛盾」を用いた短文づくりや用例確認）	「分かったこと」だけで終わらせず、「どの表現に着目したか」「交流によって考えがどう変わったか」が記述できているかを机間指導で確認・称賛する。 めあて「文章中の表現を根拠に説明できたか」に立ち返り、生徒自身に到達度を評価させる。	めあてを踏まえ、文章の表現を根拠に考えを深め、自己の学びを適切に振り返ることができているか。 (思考力・判断力・表現力)

英語科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	英語科	学年・組	第１学年３組	場所	第１学年３組教室
単元名	Lesson7 一般動詞の過去形				（第３時／全８時）
本時の目標	・過去に起こったことをたずねたり、答えたりできるようになる。 ・一般動詞の過去形の疑問文の作り方を理解し、書けるようになる。				
本時の評価規準	・一般動詞の過去形の疑問文の語順や答え方を理解し、適切に英文を書くことができる。 ・過去の出来事について、相手に伝わるように質問したり、質問に応じて答えたりしている。 ・過去の出来事について尋ね合う活動に進んで取り組み、既習事項を活用して自分の考えを伝えようとしている。				

本時の判断基準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて
	思考・判断・表現	相手の過去の経験に関心をもち、質問と応答を組み合わせながら、やり取りを広げている。	過去の出来事について質問し、Yes, I did. / No, I didn't. などを用いて答えている。	質問と応答の例文を示し、使いたい動詞を選ばせることで、安心してやり取りできるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度	既習事項を活用し、よりよい質問や答え方を考えながら、粘り強く活動に取り組んでいる。	教師や友達の助言を参考にしながら、質問したり答えたりする活動に取り組んでいる。	ペア活動の手順を明確に示し、できたことを具体的に認めることで、次の活動への意欲につなげる。

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	**過去の出来事について、相手にたずねたり答えたりして、書けるようになろう。** 【知識・技能獲得型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	*教材観、生徒観、指導観を含む。 積極的に発言する生徒が多く、ペアワークやグループワークなども間違いを恐れることなく活発に行うことができる。しかし、書くことに関しては苦手意識を持っている生徒もいる。ペアワークなどを通して話す・聞くことをたくさん行い、苦手意識を持つ生徒もグループなどで書く演習を行うことによって、少しでも積極的に英語を使うことができる授業を展開していきたい。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

過去形の疑問文はDidを前に置くことがわかった。また、ペアの人に過去にしたことについて質問したり、それについて答えたりすることができた。

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一般動詞の過去形や疑問文・否定文の語順、基本的な応答表現を理解し、聞く・話す・読む・書く活動で活用している。	過去の出来事について、場面や相手に応じて必要な情報を尋ねたり、自分の経験を伝えたりしている。	過去の出来事を伝え合う活動に進んで取り組み、既習事項を活用しながら、粘り強く表現しようとしている。

４．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点	時	学習内容	評価の観点
1	一般動詞過去形　肯定文	知識・技能 主体的	5	Lesson7 Part1	知識・技能 思・判・表
2	一般動詞過去形　不規則動詞	知識・技能 主体的	6	Lesson7 Part2	知識・技能 思・判・表
3 本時	一般動詞過去形　疑問文	知識・技能 主体的	7	Lesson7 Goal①	思・判・表 主体的
4	一般動詞過去形　否定文	知識・技能 主体的	8	Lesson7 Goal②	思・判・表 主体的

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
めあて：過去の出来事について、相手にたずねたり答えたりして、書けるようになろう。			
導入 （５分）	前回の復習（不規則動詞）	〇英単語の読み方等の支援	ペアワーク（主体的）
展開１ （２０分） 展開２ （２０分）	一般動詞過去形疑問文 パワポ→ペアワーク 文法プリント 個人→グループ→答え合わせ	〇英単語の読み方等の支援 教えるときに答えを言うのではなく、解き方やヒントを言うように伝える。 〇英語が苦手な生徒への等の声掛け	文法プリント（知・技）
まとめ （５分）	振り返り記入	「過去の出来事をたずねたり、答えたりするときに、どの表現を使いましたか。実際に自分が伝えた内容を例に説明しましょう。」	振り返り（主体的）

家庭科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	家庭科	学年・組	第１学年４組	場所	２階　被服室
単元名	衣生活：布を用いた作品で生活を演出・衣服のはたらきと手入れ　（第２時／全７時）				
本時の目標	・ランチマットの製作を通し、安全なアイロンかけのポイントを考え、習得する。 ・日常生活のなかで、アイロンかけやまつり縫いの活用方法を考える。				
本時の評価規準	・アイロンかけの注意点を考え、体験する。 ・まつり縫いに粘り強く、丁寧にとりくみ、活用方法を考えている。 ・実習の準備や片づけ等に主体的に協力している。				

本時の判断基準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて
	知識・技能	アイロンかけのポイントを理解し、丁寧に実践している。丁寧なまつり縫いを習得している。	アイロンかけを注意しながら、実践している。 まつり縫いにチャレンジしている。	アイロンかけやまつり縫いの個別指導をする。
	思考・判断・表現	衣服の補修において、アイロンかけやまつり縫いの活用方法をグループで交流することができる。	日常生活のなかにまつり縫いが活用されている場面を想像する。	日常生活のなかでイメージできそうなことの声かけをする。
	主体的に学習に取り組む態度	グループで協力し、主体的に準備や実習、片づけにとりくんでいる。	指示を受けてから、とりくんでいる。	グループ内で実習がスムースに進むよう、対話の支援をする。

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	・安全なアイロンかけのポイントを考え、習得する。 ・日常生活のなかで、アイロンかけやまつり縫いの活用方法を考える。　【知識・技能獲得型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	「アイロンかけ」や「まつり縫い」を日常生活に活用できるイメージをもてるようにする。 子どもたちの授業にとりくむ態度は、もち物をそろえてとりくむ子どもが多く意欲的。しかし、生活経験がかなり少ない子もいて、初めてのアイロンかけやまつり縫いにとりくむ子もいる。 そのようななかグループで協力し、ランチマットの完成をめざし、学校生活の給食の時間にも活用できる製作にとりくむ。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

・アイロンかけは、しわを伸ばしたり、折りめをつけたりできて便利だと思った。今度、家でもシャツのアイロンかけをやってみたい。

・今度スカートのすそがほつれていたら、まつり縫いでなおしてみたいと思った。

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・安全に丁寧にアイロンかけができる。 ・まつり縫いを表面に針目が目立たないようにできている。	・アイロンかけやまつり縫いの活用方法を考え、グループ内で交流できている。 ・製作した物の工夫点を考える。	・生活を豊かにする物の製作において、最後までとりくんでいる。 ・グループで協力して、主体的に準備や片づけにとりくんでいる。

４．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点	時	学習内容	評価の観点
1	生活を豊かにする物の製作 （ランチマット裁断・アイロンかけ）	知・技 主	5	生活を豊かにする物の製作、工夫点 （ミシン縫い）	知・技 思・判・表
2 本時	補修や収納・保管 （アイロンかけ・まつり縫い）	知・技 主	6	生活を豊かにする物の製作、工夫点 （刺しゅう）	知・技 思・判・表
3	補修や収納・保管、工夫点の案 （まつり縫い）	知・技 思・判・表	7	生活を豊かにする物の製作、工夫点 （刺しゅう）	知・技 思・判・表
4	生活を豊かにする物の製作、工夫点 （ミシン縫い）	知・技 思・判・表			

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
めあて：日常生活のなかで、アイロンかけやまつり縫いの活用方法を考えてみよう。			
導入 （５分）	・出席、もち物の確認 ・前回と本時の流れ、めあての確認	・安全に実習ができるように意識づける。 ・実習内容が遅れている子への配慮	・もち物をそろえ、意欲的にとりくんでいるか。（主）
展開１ （１５分） 展開２ （２０分）	・アイロンかけの活用方法と使用上の注意点を確認する。 ・安全で丁寧なアイロンかけをする。 ・まつり縫いの活用方法を考える。 ・まつり縫いの針目が表面に目立たないようにする。	・事故、怪我のないように実習環境を整える。 ・実習に不安を感じている子への配慮 ・日常生活のなかで、布が用いられている場面が想像できるようにする。 ・まつり縫いの手順が分かりやすい教材の提示。	・安全で丁寧なアイロンかけになっているか。（知・技） ・まつり縫いの活用されている場面をグループで交流しているか。（思・判・表） ・丁寧なまつり縫いになっているか。（知・技）
まとめ （１０分）	・振り返り 衣服の補修において、アイロンかけやまつり縫いの活用方法について説明してみよう。	・安全にアイロンを使うことができたか。どのようなことに気をつけたか。 ・アイロンかけやまつり縫いの活用方法は、どのようなことと考えるか。	・安全なアイロンかけや丁寧なまつり縫いにチャレンジし感じたことや活用方法を自分なりの言葉で表現している。（思・判・表）

理科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	理　科	学年・組	第１学年５組	場所	第１学年５組教室
単元名	地球　活きている地球　４章　語る大地　（第６時／全７時）				
本時の目標	・地層のデータや標高の情報を読み取り、地層の厚さや重なり方に注意して、柱状図を作成することができる。				
本時の評価規準	・地層の観察方法や「柱状図」「鍵層」などの基礎概念を理解し、標高や深さの関係から地層のつながりを正しく読み取ることができる。（知識・技能） ・地形図やボーリング調査のデータをもとに、標高に置き換えた柱状図を作成し、地層の重なり方や傾きを多角的に考察し表現できる。（思・判・表）				
本時の判断基準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて	
	知識・技能	地層の観察方法や概念を正しく理解し、標高換算や鍵層（凝灰岩等）を手がかりにして、離れた地点の地層のつながり・最古の層・層の厚さを誤りなく読み取ることができる。	指示に従って基本的な柱状図を読み取ったり、作図（地点B）を行ったり、鍵層に注目して地層のつながりや厚さを求めたりすることができる。	地点A・Cの柱状図を参考に、標高と地層の境界を対応させる方法を個別に示し、作図の手順を確認できるようにする。	
	思考・判断・表現	標高と深さの関係を正確に処理して柱状図を作成し、地形図や標高差から地層が一定の方向に傾いている立体的な構造に着目して、低くなっている方位を論理的に考察・表現できる。	標高を基準にした柱状図をおおむね正確に作図し、資料やヒントをもとに地層が低くなっている方位を筋道を立てて導き出そうとしている。	鍵層に着目するよう働きかけ、地点A・Cの柱状図の共通点を見つけることで、地層のつながりを考えられるようにする。	

1．本時のめあてと、そのねらい

めあて	複数地点の柱状図を作成し、鍵層を手がかりに地層のつながりや広がりを説明しよう。 【知識・技能獲得型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	**【教材観】** 地層の重なり方や広がり方を理解するためには、地層の構成物や厚さなどの情報を整理し、複数の地点の地層を比較することが重要である。柱状図は、地層の特徴や重なり方を視覚的に表現し、離れた地点の地層のつながりを考察するための有効な資料である。 **【生徒観】** 生徒はこれまでに、地層を構成する岩石や堆積物の特徴、地層のでき方について学習してきた。一方で、地層に関する複数のデータを整理し、図に表したり、そこから地層の広がり方を読み取ったりすることには、難しさを感じる生徒もいると考えられる。 **【指導観】** 本時では、地層に関するデータをもとに柱状図を作成する活動を通して、地層の特徴や重なり方を視覚的に捉えられるようにする。また、作成した柱状図を複数の地点で比較し、地層のつながりや広がり方について考察することで、地層を空間的に捉える力を育成したい。

2．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

学びや気づき：「地表面からの深さ（ボーリングの深さ）だけで地層を比べるとズレてしまうけれど、標高に直し揃えることで、離れた地点でも地層がどうつながっているかが一目でわかることがわかった。」

「凝灰岩（火山灰の層）のような『鍵層』があると、離れた場所の地層でも『同じ時代にできた目印』としてつなげて考えられるのが面白いと思った。」

これから：今回学習した柱状図を利用し、化石等を合わせた複合問題が解けるようになる。

3．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地層の重なり方や広がり方、地層を構成する岩石や化石などの特徴を理解しているとともに、観察や柱状図の作成・読み取りを通して、地層の特徴を記録・表現する技能を身に付けている。	地層の重なり方や広がり方、構成物などについて、観察記録や柱状図を基に考察し、地層の特徴やつながり、過去の環境について推論して表現している。	地層の観察や記録、柱状図の作成・読み取りなどに進んで関わり、科学的に探究しようとしている。

４．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点	時	学習内容	評価の観点
1	地層のでき方と広がり１	知識・技能 思・判・表	5	大地の恵みと災害２	知識・技能 思・判・表
2	地層の岩石	知識・技能 思・判・表	6 本時	地層のでき方と広がり２	知識・技能 思・判・表
3	地層・化石と大地の歴史	知識・技能 思・判・表	7	地層のでき方と広がり２（発展）	知識・技能 思・判・表
4	大地の恵みと災害１	知識・技能 思・判・表			

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
めあて：複数地点の柱状図を作成し、鍵層を手がかりに地層のつながりや広がりを説明しよう。			
導入 （１０分）	本時の課題（めあて）を確認する。 地層を観察する方法（崖の露頭、ボーリング調査）の確認と「柱状図」の定義を知る。	教科書の参照ページを指示し、ワークシートを完成させられるように支援する。	知識・理解 （ワークシート）
展開１ （２０分）	柱状図を作図し、地層の読み取りをする。	ワークシートの図や教科書を参考にしながら柱状図を作成する支援をする。 作図が正しくできているかを確認する。	知識・理解 （ワークシート）
展開２ （１５分）	傾いた地層の読み取りをする。	地形図を読み取り、柱状図の作図の仕方を確認しながら、地層の傾きがどうなっているかを考える。	思考・判断・表現 （ワークシート）
まとめ （5分）	本時の内容を「振り返り」として説明する。	柱状図をどのように比べると、離れた地点の地層のつながりがわかるかを「振り返り」として説明する。	

保健体育科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	保健体育科	学年・組	第２学年１組	場所	第２学年１組教室
単元名	傷害の防止「８　心肺蘇生法」　（第１時／全２時）				
本時の目標	・心肺停止時における居合わせた人（バイスタンダー）による迅速な行動の重要性と、心肺蘇生およびAEDの仕組みや意義を理解する。 ・救急車到着までの時間経過と救命率のデータ等を比較分析し、救命処置の必要性について根拠をもって考え、表現することができる。				
本時の評価規準	【知識・技能】 ・心肺停止時の応急手当（胸骨圧迫、人工呼吸、AED）の目的や仕組み、バイスタンダーの役割を理解している。 【思考・判断・表現】 ・救命率のデータや救急車到着までの時間を根拠に、なぜ居合わせた人の迅速な行動が必要なのかを考え、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・次回の実技を見据え、救命処置の手順や留意点を自分事として捉え、意欲的に学ぼうとしている。				
本時の判断規準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて	
	思考・判断・表現	救急車の到着時間（約10.3分）や生存率・社会復帰率のデータを比較分析し、バイスタンダーによる心肺蘇生とAED使用が救命率向上に不可欠である理由を多角的に説明できる。	資料から救命率と時間経過の関係を読み取り、居合わせた人による心肺蘇生が必要である理由を説明できる。	資料1・資料2のグラフを提示し、「処置を実施した場合」と「しなかった場合」の数値の差に注目できるよう個別に支援する。	
	主体的に学習に取り組む態度	次回の実技を見据え、心肺蘇生の手順やポイント（姿勢・力加減・死戦期呼吸への対応等）について自分なりの課題意識を持って意欲的に取り組んでいる。	課題解決や対話活動に主体的に参加し、救命処置の重要性を認識して学習に取り組んでいる。	運動場で友達が倒れた場面など、身近な状況を設定して問いかけ、当事者意識を持たせる。	

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	倒れている人を発見したとき、なぜ居合わせた人（バイスタンダー）の迅速な救命処置が必要なのだろうか？【探究・思考型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	【教材観】 心肺停止後、脳に酸素が届かなくなると救命可能性は急速に低下する。全国平均で救急車到着に約10.3分かかるため、その場のバイスタンダーがいかに早く胸骨圧迫やAEDを行うかが生命を左右する。数値データ（生存率・社会復帰率）を活用し、処置の根拠と仕組みを理論的に理解させることが次回実技への強い動機付けとなる。 【生徒観】 生徒はAEDや心肺蘇生という言葉は知っているものの、「大人がやること」「自分には関係ない」と他人事に捉えがちである。また「死戦期呼吸（あえぎ呼吸）」のような判断に迷う状態についての知識が不足している。 【指導観】 導入で身近な緊急場面を提示して当事者意識を揺さぶり、データ分析ワークを通して「なぜ自分たちがすぐ動く必要があるのか」を思考・言語化させる。グループでの対話を取り入れることで知識の定着と深まりを図る。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

「救急車が到着するまでの約 10.3 分の間に、その場にいる私たちが胸骨圧迫や AED を行わないと、救命率が大きく下がってしまうことがわかった。呼吸の確認で『しゃくりあげるような呼吸（死戦期呼吸)』があっても心肺停止と判断してすぐ行動することが大切だと知った。次回の体育館での実技では、胸骨圧迫の位置や押し方、AED の操作をしっかり身につけて、いざという時に動けるようにしたい。」

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
心肺停止時の応急手当（胸骨圧迫、人工呼吸、気道確保、AED）の意義と方法、救命可能性と時間経過の関係について理解している。	状況に応じた適切な救命処置の必要性を判断し、データや科学的根拠をもとにその理由を説明することができる。	生命の尊重に基づき、応急手当の重要性を認識して、意欲的・主体的に実技や学習活動に取り組もうとしている。

４．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点
1 本時	心肺蘇生の理論とバイスタンダーの役割（救命可能性と時間経過、119番通報と救急車到着時間、心肺蘇生・AEDの仕組み・判断基準）	思考・判断・表現 / 主体的に学習に取り組む態度
2	心肺蘇生法とAEDの実技実習（トレーニング人形を用いた胸骨圧迫・気道確保・人工呼吸・AED操作の一連の流れ）	知識・技能 / 主体的に学習に取り組む態度

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
	めあて：倒れている人を発見したとき、なぜ居合わせた人（バイスタンダー）の迅速な救命処置が必要なのだろうか？		
導入 （８分）	1. 課題の把握 ・運動場で友達が急に倒れ、呼びかけても反応がない場面を想定する。 ・「あなたならまずどう行動するか?」をブレインストーミングする。	◇身近な場面を設定し、当事者意識を持たせる。 〇意見が出にくい生徒には「周りの大人を呼ぶ」「119番する」など具体的な選択肢を提示する。	主体的に学習に取り組む態度 （発言）
展開１ （１７分）	2. 資料データの読み取りと考察 ・資料1（救命の可能性と時間経過）および資料2（実施の有無と生存率・社会復帰率）を分析する。 ・八尾市の実状にも触れる。 ・発問：「救急車が到着するまでの時間は全国平均で約10.3分。なぜ居合わせた人がすぐに救命処置を開始しなければならないのだろうか？」 ・個人思考後、ペア/グループで意見交換する。	◇「処置をしなかった場合」と「心肺蘇生・AEDを行った場合」の生存率（6.6%→12.8%→50.3%）や社会復帰率の数値差に着目させる。 ◇約10.3分間、何もしないと救命可能性が著しく低下することをグラフから読み取らせる。	思考・判断・表現 （対話内容）
展開２ （１７分）	3. 心肺蘇生とAEDの仕組み ・手順の整理 ・胸骨圧迫（人工的に血液を循環させ脳や心臓に酸素を送る）や気道確保・人工呼吸の役割を理解する。 ・AED（電気ショックで心臓の痙攣を取り除く）の役割と特別な資格がなくても使える安全性を知る。 ・注意点：しゃくりあげるような異常な呼吸（死戦期呼吸）も心肺停止の兆候であるため、迷わず胸骨圧迫を開始することを学ぶ。 ・次回の実技に向け、手順の流れ（反応確認→協力要請・119番/AED指示→呼吸確認→胸骨圧迫 ・人工呼吸→AED）を確認する。	◇胸骨圧迫の姿勢（肘を伸ばし垂直に体重をかける）や絶え間なく行う理由を視覚資料や教員の実演で示す。 〇死戦期呼吸の判断に惑わされず「正常な呼吸がない＝すぐ心肺蘇生」という原則を徹底理解させる。	

まとめ （８分）	4. 振り返りと次回実技への意欲付け ・本時のめあてに対する振り返りをノートに記入する。 ・「次回は実際に人形とデモ用AEDを使って、命を救う技術を体験・マスターします」と次回の告知を行	◇期待する振り返りの好例を共有し、実技学習（体育館）へのモチベーションを高める。	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 （保健学習ノート）

英語科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	英語科	学年・組	第２学年２組	場所	第２学年２組教室
単元名	Friends from Singapore　（第９時／全１２時）				
本時の目標	・既習の比較表源を用いて、自らの調査結果を整理し、相手に分かりやすく伝えることができる。 ・パフォーマンステストに向けて、ペアで協働しながら、互いの表現を改善し、伝え合う力を高める。				
本時の評価規準	・既習の比較表現を活用し、自らの調査結果を整理するとともに、相手に分かりやすく伝わるように工夫して表現している。（思考・判断・表現） ・パフォーマンステストに向けて、ペアで積極的に学び合い、互いの表現を改善しながら、よりよい発表を目指して粘り強く取り組んでいる。（主体的）				
本時の判断基準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて	
	思考・判断・表現	既習の比較表現を適切に活用し、調査結果に自分の考えや理由を加えるなど、相手に分かりやすく工夫して表現している。	既習の比較表現を用いて、自分の調査結果を適切に表現している。	比較表現を用いた英文や語句リストを提示し、調査結果に合わせて語句を選んだり、文を組み立てたりできるように支援する。	
	主体的に学習に取り組む態度	パフォーマンステストに向けて、ペアで積極的に助言や意見交換を行い、相手の意見を取り入れながら、自分の表現をよりよくしようと粘り強く取り組んでいる。	パフォーマンステストに向けて、ペア活動に参加し、助言を受けたり、自分の表現を見直したりしながら学習に取り組んでいる。	ペアで取り組む内容や手順を明確に示し、具体的な質問例や声かけを用いて、互いに助言したり、自分の表現を見直したりできるように支援する。	

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	アンケート結果を、比較表現を正しく使って伝えることができる。【知識・技能獲得型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	これまでに学習した比較表現を、本時のアンケート結果の発表活動に活用することで、既習事項の定着を図る。また、ペアで意見を交流し、互いの表現の良さや改善点に気づかせるとともに、生徒の実態に応じた支援を行いながら、英語で情報を整理し、相手に分かりやすく伝える力を育成する。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

学びや気づき：これまでに学習した比較表現を使って、クラスのアンケート結果を英語で表現することができた。特に、比較級や最上級を使うことで、調査結果を分かりやすく伝えられることが分かった。他の人とのやりとりを通して、自分とは違う表現の仕方にも気づくことができた。

これから：新しく学習したことに加え、これまでに学習した表現も使って、自分の考えを伝えられるようにしたい。

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
形容詞や副詞の比較級・最上級・同等非核などの文構造を理解し、それらを用いて事実や自分の考え、調査結果などを聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする技能を身につけている。	既習の比較表現を活用し、調査結果を整理して、自分の考えや事実を適切に表現している。	パフォーマンステストに向けて、ペアで協力しながら自分の表現を改善し、粘り強く学習に取り組もうとしている。

４．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点	時	学習内容	評価の観点
1	形容詞の比較級・最上級 (-er/ the -est)	知識・技能 思・判・表	7	同等比較(as …as～)	知識・技能 思・判・表
2	形容詞の比較級・最上級 (-er/ the -est)	知識・技能 思・判・表	8	副詞の比較級・最上級	知識・技能 思・判・表
3	形容詞の比較級・最上級 (-er/ the -est)	知識・技能 思・判・表	9 本時	アンケート結果をもとにまとめ、伝える	思・判・表 主体的
4	形容詞の比較級・最上級 (-er/ the -est)	知識・技能 思・判・表	１０	教科書の内容理解①	主体的
5	形容詞の比較級・最上級 (more/ the most)	知識・技能 思・判・表	１１	教科書の内容理解②	主体的
6	形容詞の比較級・最上級 (more/ the most)	知識・技能 思・判・表	１２	教科書の内容理解③	主体的

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 (評価方法)
	めあて：アンケート結果を、比較表現を正しく使って伝えることができる。		
導入 （５分）	前時までの学習を振り返り、本時の課題（めあて）を確認する。		
展開１ （１０分） 展開２ （３０分）	パフォーマンステストに向けて、ペア活動を行う。 クラスのアンケート結果をもとに、比較表現を用いて、教員に伝える。 自身の英文をワークシートに書く。	話の流れを理解しながら活動させる。 〇英単語の読み方等の支援。 既習事項の英文を振り返りながら書くことを意識させる。	思考・判断・表現 （ワークシート） 思考・判断・表現 （ワークシート）
まとめ （５分）	本時の振り返りを書く。	何と何を比べ、どの比較表現を使ったか、相手に分かりやすく伝えるために工夫したことを意識して書くよう促す。	主体的 （ワークシートの振り返りの箇所）

数学科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	数学科	学年・組	第２学年３組	場所	分割C教室
単元名	４章　図形の調べ方				（第６時／全１４時）
本時の目標	・くぼんだ角の求め方について、補助線や三角形の内角の和や角の性質を利用して、説明できるようにする。				
本時の評価規準	・既習の図形の性質を活用し、試行錯誤しながら角度を求めようとしている。 ・補助線を引くなどして、角度の求め方を数学的な根拠を示して説明している。 ・既習事項を用いて、角度を正しく求めている。				
本時の判断基準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて	
	思考・判断・表現	三角形の内角・外角の性質などを関連付けて、角の大きさを求める過程を説明している。	三角形の内角・外角の性質などを利用して、くぼんだ角の大きさを求めることができる。	補助線を引いたり、角を求める順序を示したりして、解決できるようにする。	
	主体的に学習に取り組む体動	グループ活動に積極的に参加し、対話を通して、理解を深めている。	グループ活動に参加している。	グループ活動に参加できるよう支援する。	

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	くぼんだ角の大きさの求め方が説明できる。【探究・思考型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	ペアや班での活動では、自分の意見を発表することはできるが、学び合いという観点では、自分の意見に自信がないからか活発に進む班と進まない班がある。答えが１つという課題ではない、考える過程がたくさん存在するような課題において、さまざまな考えを発表することが仲間の学習につながることを認めて交流を進めさせたい。 三角形や四角形の性質について、それぞれの図形に着目し、実験、操作、観察などを通して調べている。第２学年では単元を通して、さまざまな問題から角の大きさを求められるようにしていきたい。既習事項を利用してさまざまな図形の性質や関係を論理的に考察できることや、それを人に分かりやすく説明できる力も育みたい。図形の性質や関係を調べる過程やその結果について説明し伝え合う活動を通して、個々の生徒が積極的に考え、適切に表現できるようにしていきたい。始めは正確な言葉で表現することよりも、自分の言葉で論理的に説明することを目標にする。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

くぼんだ角の大きさを，今までに習ったことを使って求めることができた。また，くぼんだ角の大きさは∠A～∠C の大きさがどんな大きさでも，その和と等しいことがわかった。今までに習った内容を使えば，いろいろな角度を求めることができることがわかった。

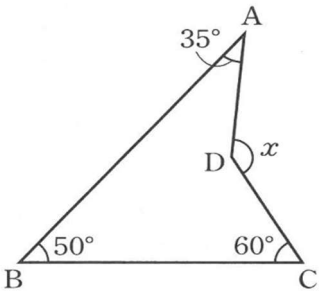
３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
平行線の性質や三角形の合同条件を理し、図形の性質を用いて角の大きさを求めたり、図形の合同を判断したりすることができる。	図形の性質や合同条件を根拠として、図形の性質が成り立つ理由を筋道を立てて考察し、証明や説明によって表現することができる。	図形の性質を調べたり、証明したりすることに関心をもち、問題解決の過程を振り返り、よりよい方法を考えようとしている。

４．単元の指導と評価の計画

時		学習内容	評価の観点
1		直線が交わってできる角の性質	・授業プリントをしっかりと書き、内容が整理できているか。（主体的に学習に取り組む態度） ・グループ活動に参加し、自分の意見を伝えれているかどうか。（主体的に学習に取り組む態度） ・振り返りを通して、要点を整理できているかどうか。（思考・判断・表現） ・平行線や角の性質が理解できているかどうか。（知識・技能） ・三角形の合同条件が理解できているかどうか。（知識・技能）
2		平行線の性質と平行線になるための条件	
3		三角形の角の性質	
4		多角形の内角の和	
5		多角形の外角の和	
6	本時	角の大きさを求める方法	
7		三角形の合同	
8		三角形の合同条件	
9		三角形の合同条件のどれを使うか判断する	
１０		仮定と結論	
１１		証明のしくみ	
１２		証明の進め方①	
１３		証明の進め方②	
１４		章末の問題	

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
導入 （８分）	１、前時までの復習をする。	〇対頂角、平行線の同位角、平行線の錯角、三角形の内角の和、補助線、三角形の内角・外角の性質を確認する。	・知識・技能
	２、本時のめあてと学習課題を提示する。		
	めあて：くぼんだ角の大きさの求め方が説明できる。		
展開１ （８分）	問題 次の図で、∠xの大きさを求めなさい。求め方も考えてみよう。  	・授業プリントを配付する。	・主体的 （授業プリント）
	３、自力解決 ・自分で考えを書く。	・角の大きさを求めるだけではなく、どの性質を用いたのかを明確にさせる。 ・自力解決が難しい生徒には、補助線を引いたりするように促す。	
展開２ （１０分）	４、グループ活動 ・グループをつくり、自分の考えを発表したり、他者の考えを聞く。 ・他の考え方がないか話し合う。	・複数の求め方を考えるように促す。	・主体的 （グループ活動できているかどうか。）
展開３ （１３分）	５、説明する。 ・黒板で説明する。	・発表する人以外の聞く態度をしっかりさせる。	・思考・判断・表現 （どの性質を用いたのかを明確にし、説明できているか。）
展開４ （５分）	６、定着問題（別紙） ・問題を解く。	・練習プリントを配付する。	・知識・技能 （練習プリント）

まとめ （６分）	７、まとめ ・くぼんだ角の大きさも、既習の図形の性質を活用することで角の大きさを求められることを確認する。 ・定着問題を、どの性質を使ったのかを自分の言葉で説明する。	・本時の振り返りをする。	・知識・技能

数学科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	数学科	学年・組	第２学年３組	場所	第２学年３組教室
単元名	第４章　図形の調べ方　（第６時／全１４時）				
本時の目標	・平行線と角，三角形やｎ角形の角の性質をもとに，さまざまな角の大きさの求め方を説明できるようにする。 ・くぼんだ角の大きさを求め，その大きさになる理由を説明することができる。				
本時の評価規準	・基本的な平面図形の性質を見いだし，平行線や角の性質を基にして，くぼんだ角の大きさを求め，その大きさになる理由を説明することができる。 ・対頂角や平行線と同位角・錯角の性質や多角形の内角や外角の和など，学んだことを学習に生かそうとしている。				
本時の判断基準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて	
	思考・判断・表現	・基本的な平面図形の性質を見いだし，平行線や角の性質を基にしてくぼんだ角の大きさの求め方を，平行線と角や，三角形の外角の性質などの根拠を示して説明することができる。	・基本的な平面図形の性質を見いだし，平行線や角の性質を基にしてくぼんだ角の大きさの求め方を，説明することができる。	・くぼんだ角の大きさを求めるために，平行線と角や三角形の角の性質を利用できるような補助線をひかせる。	
	主体的に学習に取り組む態度	・くぼんだ角の大きさを求める方法を粘り強く考えようとしている。 ・対頂角や平行線と同位角・錯角の性質や多角形の内角や外角の和など，学んだことを学習に生かそうとしている。	・くぼんだ角の大きさを求める方法を考えようとしている。 ・対頂角や平行線と同位角・錯角の性質や多角形の内角や外角の和など，学んだことを学習に生かせるか検討している。	・既習事項を利用できるように補助線をひかせたり，知ってることカードを利用したりできるように声かけをする。	

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	くぼんだ角の大きさを求め，その大きさになる理由を説明することができる　【探究・思考型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	ペアや班での活動では，意欲的に自分の意見を発表することはできるが，学び合いという観点では，自分の意見に自信がないからか活発に進む班と進まない班がある。自分の考えをノートに書くことはできるが，人と交流するとなると間違っていないかと交流が進まない傾向にある。答えが１つという課題ではない，考える過程がたくさん存在するような課題において，さまざまな考えを発表することが仲間の学習につながることを認めて交流を進めさせたい。 三角形や四角形の性質について，それぞれの図形に着目し，実験，操作，観察などを通し

	て調べている。第２学年では単元を通して，数学的な推論の過程に着目し，図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力を身に付けさせていきたい。さまざまな問題から角の大きさを求められることよりも，既習事項を利用してさまざまな図形の性質や関係を論理的に考察できることや，それを人に分かりやすく説明できる力を育みたい。図形の性質や関係を調べる過程やその結果について説明し伝え合う活動を通して，個々の生徒が積極的に考え，適切に表現できるようにしていきたい。始めは正確な言葉で表現することよりも，自分の言葉で論理的に説明することを目標にし，洗練していくことで，論理的に説明することに対する嫌悪感を取り除いていく。 既習事項について思い出せない生徒には，ノートで振り返ることや，知っていることカード（紙媒体）をいつでも参照できるように配慮する。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

くぼんだ角の大きさを，今までに習ったことを使って求めることができた。また，その求め方を，班のメンバーに説明して理解してもらうことができた。くぼんだ角の大きさは∠A～∠C の大きさがどんな大きさでも，その和と等しいことがわかった。今までに習った内容を使えば，いろいろな角度を求めることができることがわかった。

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 対頂角，平行線や角の性質を理解している。 ② 三角形の内角の和，外角についての性質を見いだすことができる。 ③ 多角形の内角の和，外角の和についての性質を見いだすことができる。 ④ 平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解している。証明の必要性と意味及びその方法について理解している。	① 対頂角や平行線と角の性質を見いだし，それらを確かめ説明することができる。 ② 三角形の内角の和や外角の性質を見いだし，平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明することができる。 ③ ｎ角形の内角の和，外角の和の性質を見いだし，平行線や角，三角形の内角の和を基にしてそれらを確かめ説明することができる。 ④ 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり，証明を読んで新たな性質を見いだしたりすることができる。三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用することができる。	① 平面図形の性質や証明のよさを実感して粘り強く考えようとしている。 ② 平面図形の性質や図形の合同について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③ 平面図形の性質や証明を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

４．単元の指導と評価の計画

時	学　習　内　容	評価の観点
1	・対頂角の意味を知り，対頂角が等しいことを，論理的に筋道立てて説明できるようにする。 ・同位角，錯角の意味を知る。	知識･技能① 思考･判断･表現①
2	・平行線と錯角の関係を，平行線と同位角の関係をもとにして理解できるようにする。 ・平行線と同位角・錯角の関係をもとにして，さまざまな角の大きさを求めることができるようにする。	主体的に学習に取り組む態度③ 知識･技能①
3	・三角形の内角の和が180°であることや三角形の外角の性質を，平行線と角の性質をもとにして理解し，説明できるようにする。	知識･技能② 思考･判断･表現②
4	・ｎ角形の内角の和の求め方を，三角形の内角の和が180°であることをもとにして理解できるようにする。	知識･技能③ 思考･判断･表現②
5	・ｎ角形の外角の和の求め方を，ｎ角形の内角の和をもとにして説明できるようにする。	主体的に学習に取り組む態度② 思考･判断･表現③
6 本時	・平行線と角，三角形やｎ角形の角の性質をもとに，さまざまな角の大きさの求め方を説明できるようにする。	主体的に学習に取り組む態度① 思考･判断･表現③
7	・平面図形の合同の意味と表し方を知り，合同な図形の性質を理解することができるようにする。	知識･技能④
8	・ある三角形と合同な三角形を作図するには，どんな要素が分かればいいか考え，三角形の合同条件を理解できるようにする。	知識･技能④
9	・２つの三角形が合同かどうかを，三角形の合同条件を使って判断できるようにする。	主体的に学習に取り組む態度③ 知識･技能④
10	・三角形の合同条件を利用して証明することについて考え，また，仮定と結論の意味を理解できるようにする。	知識･技能④ 思考･判断･表現④
11	・根拠となる事柄を明らかにして，三角形の合同を示し，証明のしくみを理解できるようにする。	主体的に学習に取り組む態度② 知識･技能④
12	・課題から仮定を利用して三角形の合同条件を見いだし，三角形の合同の証明ができるようにする。	思考･判断･表現④
13	・三角形の合同を証明することを通して，図形の新たな性質を見つけることができるようにする。	思考･判断･表現④
14	・単元の学習内容についての振り返りの課題に取り組むことで，単元で学習したことがどの程度身についているかを自己評価できるようにする。	思考･判断･表現④

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
導入 （５分）	**めあて：**くぼんだ角の大きさを求め，その大きさになる理由を説明することができる ・ペアで既習事項を振り返る。 対頂角，平行線の同位角・錯角，三角形の内角の和，三角形の外角等	〇学習するごとにまとめてきた「知ってることカード」をプリントや教室掲示等でいつでも閲覧できるようにする。	
展開１ (10分)	・課題を把握する。 **へこみのある四角形のくぼんだところにできる角の大きさを求めることができるだろうか** ・へこみのある四角形の角，∠A，∠B，∠Cの大きさがわかっているとき，∠ｘの大きさをいろいろな方法で求め，その説明をすることを知る。 **∠ｘの大きさは何度になるだろう** ・∠ｘの大きさを予想する。 ・生徒の予想:130°，150°など ・∠ｘの大きさが145°であることを知る。 ・見通しをもつ。 既習事項を使うためにはどうしたらいいのか考える。	・直感で何度くらいになるか，予想して発表させる。 ・先端の角を切ってつなげ，∠ｘと等しくなることを示す。 ◇今までも既習事項を使うために，一直線に並ぶ角をつくったり，三角形の内角と外角の性質を使ったり，補助線をひくことで平行線と角の性質を利用したりしたことを引き出す。	
展開２ (30分)	既習事項を利用し，∠ｘの大きさが 145°になる理由を考えよう ・∠ｘの大きさが145°になる理由を考える。 ・考えたことを学習プリントに記入する。 ∠ｘの大きさが 145°になる理由を，説明しよう ・自分が考えた求め方を，他の班員に自分の言葉で説明する。 ・グループ内で複数の求め方があることを共有する。	◇机間巡視し，求め方が早く分かった生徒には，記号を使ってより分かりやすく説明できるように促す。 〇求め方が分からない生徒にはヒントカードを提示し，さらに考えるように促す。 ・班になり，自分の考えた解法を班員に説明するよう指示する。 班活動のルール ・１人１回必ず説明すること ・聞く側はうなずいてきくこと	態①： 行動観察

	・班員全員の説明がより分かりやすい説明になるように，班員で協力して修正を加える。 ・班の中で代表を１名決め，全体発表する。 ・全体を代表して考えた解法を発表する。他の生徒は発表を聞く。	・各班に説明用シートを配る。 ・机間巡視し，解法のチェックをする。 ・各班の代表に解法を全体発表させる。	思③：ワークシート
まとめ （５分）	・へこみのある四角形のくぼんだ角の求め方を，1つは自分なりの言葉で説明できることを確認する。 ・振り返りシートを記入する。	・へこみのある四角形のくぼんだ角の大きさは，∠A～∠Cがどんな角度でもその和と等しくなることを，GeoGebraを使って確認する。	態③：振り返りシート

国語科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	国語科	学年・組	第２学年４組	場所	第２学年４組教室
単元名	デジタル市民として生きる　（第１時／全２時）				
本時の目標	・文章の構成や論理の展開に着目して内容をとらえ、筆者の主張とその根拠を整理することができる。				
本時の評価規準	・思考・判断・表現：情報に関する内容をとらえ本文中の情報や筆者主張の関係を整理している。 ・主体的に学習に取り組む態度：自分の思考の過程を振り返り、他社の意見や本文をもとに考えを深めることができる。				

本時の判断基準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて
	思考・判断・表現	文章の構成や論理の展開に着目し、本文の具体的な情報を適切に取り上げながら、筆者の主張とその根拠の関係を明確に整理している。	おおむね満足できる 本文の情報を取り上げ、筆者の主張とその根拠の関係を整理している。	筆者の主張が述べられている部分や、主張を支える具体的な情報に着目できるよう、重要な語句や段落に印を付けさせ、主張と根拠を対応させるワークシートを活用する。
	主体的に学習に取り組む態度	自分の読み取りや考えを振り返り、他者の意見と本文の内容を関連付けながら、筆者の主張について自分の考えをさらに深めようとしている。	自分の読み取りや考えを振り返り、他者の意見や本文の内容をもとに、自分の考えを見直そうとしている。	振り返りの視点を具体的に示し、「友達の意見で参考になったこと」「本文を読んで気付いたこと」などの記述の手掛かりを与え、自分の考えを振り返ることができるようにする。

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	文章の構成や論理の展開に注目し、筆者の主張を読み取る　【探究・思考型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	教材文の構成や論理の展開に着目して読む活動を通して、文章中の情報と筆者の主張との関係を整理し、筆者がどのような根拠をもとに主張を展開しているのかを捉えられるようにする。また、読み取ったことをワークシートにまとめ、他者と共有することで、自分の考えを深めるとともに、文章を論理的に読む力を養う。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

文章を読んで、筆者の主張だけでなく、その主張を支える根拠にも注目することが大切だと分かった。本文の情報を整理すると、筆者がなぜそのように考えているのかが分かりやすくなった。友達の意見と比べることで、自分が気付かなかった文章のつながりにも気付くことができた。次は、根拠と主張の関係を意識して、ほかの文章も読んでみたい。

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文章の構成や論理の展開について理解を深めている。	「読むこと」において、文章の構成や論理の展開に着目し、内容を捉え、筆者の主張とその根拠の関係を整理している。	進んで文章の構成や論理の展開に着目して読み、学習課題に沿って筆者の主張や根拠を捉え、自分の考えを深めようとしている。

４．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点			
1 本時	本文通読、文章構成把握 筆者の主張を読み取る。	思・判・表 主体的	2	前時の振り返り、筆者の主張と根拠を踏まえ、自分の意見と他者の意見を比較し、考えを深める。	思・判・表 主体的

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 (評価方法)
	めあて：文章の構成や論理の展開に注目し、筆者の主張を読み取る		
導入 （１０分）	教材名「デジタル市民」について。本時のめあての確認。	デジタル社会や情報との関わりについて、生徒の日常生活を想起させる。本時はまず文章の構成や筆者の主張を正確に読み取ることを確認する。	学習課題を理解し、本文を読み取ろうとしている。 （観察）
展開１ （１０分） 展開２ （１０分）	教材文を通読し、文章全体の内容を大まかに捉える。各段落の内容を簡潔にまとめる。 文章の構成や論理の展開に着目し、段落ごとの役割を考える。筆者の主張が述べられている部分を探す。	段落ごとの要点を短い言葉で表現させ、文章全体の流れを把握させる。内容を捉えにくい生徒には、段落内の重要な語句に着目するよう促す。 段落相互のつながりに着目させ、文章がどのような順序で展開しているかを考えさせる。	本文の内容を捉え、段落ごとの要点を整理している。 （ワークシート） 文章の構成や論理の展開に着目し、筆者の主張を読み取っている。（ワークシート）
展開3 （ １５分）	筆者の主張を支える根拠や具体的な情報を本文から探す。主張と根拠の関係をワークシートに整理する。ペアや全体で読み取った内容を交流し、本文に基づいて自分の読み取りを確かめる。	「筆者は何を主張しているか」「その主張を支える情報はどこにあるか」を問い、主張と根拠を対応させる。根拠を見つけにくい生徒には、本文中の具体例や重要な語句に着目させる。交流では、本文のどの部分を根拠にしたのかを明確に説明させ、読み取りの違いを確認させる。	本文の情報を取り上げ、筆者の主張とその根拠の関係を整理している。（ワークシート・発言）
まとめ （　5分）	本時のめあてに沿って、読み取ったことを振り返る。次時の学習課題を確認する。	「筆者の主張は何か」「どのような根拠からその主張が導かれているか」という視点で振り返らせる。次時は、文章の内容を踏まえ、デジタル市民としての生き方について考えを深めることを伝える。	主体的に学習に取り組む態度： 本時の読み取りを振り返り、本文をもとに理解を確かめようとしている。 （振り返りシート）

英語科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	英語科	学年・組	第２学年３、４組	場所	たちばなA教室
単元名	Let‘s introduce our artworks!　～自分の”好き”を伝える作品発表会～　（第６時／全６時）				
本時の目標	・制作した作品を簡単な英語で紹介し、自分の好きなことや考えを伝えることができる。 ・友だちの発言に対してリアクションや質問を積極的に行い、温かい雰囲気の中で相互にやりとりを楽しむことができる。				
本時の評価規準	・ジェスチャーや声の大きさを工夫して、英語で自分なりに伝えようとチャレンジすることができている。 ・友だちの発表をしっかりと聞き、興味をもって質問するなど、温かい雰囲気づくりに協力できている。 ・友だちとのやりとりを楽しみ、準備や発表の中で自分の頑張ったことを振り返ることができている。				
本時の判断基準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて	
	思考・判断・表現	学習した語句や表現を活用し、作品を示しながら、声の大きさや発音を工夫して聞き手に伝わるように発表している。	学習した語句や表現やモデル文を参考にしながら、簡単な英語を使って最後まで発表をやりきることができている。	ルビ付きの原稿を用意したり、モデル文を黒板に掲示したりするなど、安心して発表できるようにする。	
	主体的に学習に取り組む態度	友だちと一緒に言語活動を楽しんでいる。英語が苦手でも、頑張って伝えようとする姿勢が見られる。友だちへの拍手、質問、励ましなど、協力的な態度が見られる。	言語活動に参加して友だちの発表を聞き、教師の働きかけに応じて自分の課題に最後まで取り組むことができている。	緊張や不安、恥じらいなどを少しでも和らげられるように、本人への働きかけに加えて周りへの温かい雰囲気づくりに気をつける。	

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	自分の作品の特徴や好きなところを英語で紹介し、友だちの発表に質問や感想を伝えよう 【探究・思考型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	本時では、自らテーマを選んで制作した作品を簡単な英語で表現するという活動を設定した。英語に対して苦手意識を持つ生徒もいるが、自分で作った愛着のある作品を扱うことで英語発信への意欲を高め、表現できたという達成感から学習への自信を育みたい。また、相互の質問や感想を通して温かい交流を促し、今後もそれぞれの努力や個性を尊重し認め合える関係性を築いていけるよう期待する。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

・英語で話すことは難しかったけど、準備したメモを見ながら最後までやりきることができて良かった。（英語表現・発表できたことへの自信）

・不安もあったけど、みんなからうなずきや温かい拍手がもらえて安心した。（認め合い）

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語の基本的な語句や文法、表現を理解し、英語を使う際に文脈に合った形で用いることができている。	自分の伝えたいことを、ジェスチャーや指差しなども交えて、適切な発音と声の大きさで聞き手にわかりやすく表現することができている。	意欲的に作品作りや発表の準備に取り組み、友達の発表に対しても温かい拍手をしたり質問をしたりして協力的である。

４．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点
第１時	英会話練習 作品紹介の英文作り 制作活動	自分なりの興味や視点をもって作品作りができているか。（主体的に学習に取り組む姿勢） ペア活動、発表を通して、他者の発言に耳を傾け、自分の考えを伝えようとしているか。（主体的に学習に取り組む姿勢） 英語の基本的な語句や文法、表現を理解し、ペアワークや発表の際に文脈に合った形で用いることができているか。（知識・技能） 自分の伝えたいことを、ジェスチャーや指差しなども交えて、適切な発音と声の大きさで聞き手にわかりやすく表現することができているか。（思考力・判断力・表現力）
第２時	英会話練習 作品紹介の英文作り 制作活動	
第３時	英会話練習 紹介の準備物作成 質問や答え、感想の準備	
第４時	英会話練習 紹介の準備物作成 質問や答え、感想の準備	
第５時	英会話練習 作品発表の練習	
第６時 本時	英会話（ペアワーク） 作品の発表 振り返り（ワークシート）	

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
めあて：自分の作品の特徴や好きなところを英語で紹介し、友だちの発表に質問や感想を伝えよう。			
導入 （１０分）	ウォーミングアップ ・挨拶 ・すらすら英会話	・プリントを見ながら質問と答えの練習をする。	・英語を話そうとする意欲が見られるか。（主体的に学習に取り組む態度）
展開１ （１０分）	制作の発表 ・発表時に使う表現の復習 ・教師の例	・ポイントの表現を黒板に張りつけて、確認しやすくする。	・一緒に要点を確認できている。（主体的に学習に取り組む態度）

展開２ （２５分）	・一人ずつ自分の作品を英語で紹介する。（１人５分間程度） ・その後、聞き手は英語で質問をしたり感想を述べたりする。 ・時間が余れば、作品に関する自分の好きなことについて日本語で補足説明する。	・伝わりにくい英語があれば、日本語で補足を入れる。 ・質問や感想が難しいときは、例文を参考に発言するよう促す。 ・定型文での英語のやりとりが終わったら、日本語を使って質問や補足説明などの時間をとる。	・自分の言葉で説明したり伝えたりすることができている。（思考力・判断力・表現力） ・英語の基本的な語句や文法、表現を理解し、文脈に合った形で用いることができている。（知識・技能） ・関心のあることへの深い知識や理解があり、わかりやすく伝えることができている。（知識・技能）
まとめ （５分）	本時の振り返り ・自分が頑張ったところや友だちのよかったところなどを振り返る。	・自分の作品について何を伝えたか。友だちに伝わるように工夫したことと、友だちの発表を聞いてわかったことなどを考える。 ・一人ずつ簡単な感想を述べる。	・これまでの取り組みを前向きな気持ちで振り返ることができる。（思考力・判断力・表現力）

社会科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	社会科	学年・組	第３学年１組	場所	第３学年１組教室
単元名	企業の競争と独占の問題　（第３時／全９時）				
本時の目標	・企業はなぜ競争する必要があるのか、消費者への影響と結びつけて説明しよう				
本時の評価規準	・企業の競争や独占が消費者の生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し表現している。【思考・判断・表現】 ・企業が消費者に商品を選んでもらうための工夫について考え、表現している。【思考・判断・表現】 ・企業の競争が消費者の生活に与える影響について考え他者の意見も参考にしながら考えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】				
本時の判断基準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて	
	思考・判断・表現	企業の競争や独占が消費者の生活に与える影響について、企業の行動と消費者への影響を関連付けて考察し、表現している。	企業の競争や独占が消費者の生活に与える影響について、具体例を挙げて表現している。	商品の価格や種類などに着目できる資料を提示し、企業の競争や独占が消費者に与える影響を考えられるよう支援する。	
	主体的に学習に取り組む態度	企業の競争や独占について、他者の意見を参考にして自分の考えを深め、学習を振り返りながら課題に取り組もうとしている。	企業の競争や独占について、自分の考えを持ち、学習に取り組もうとしている。	商品の価格や品質、種類などの視点を示し、個人で考える時間を確保するとともに、他者の意見を参考にして自分の考えをまとめられるよう支援する。	

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	企業はなぜ競争する必要があるのか、消費者への影響と結びつけて説明しよう【探究・思考型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	企業の競争は、商品の価格や品質などを通して、消費者の生活に影響を与えている。生徒は授業をきちんと受ける一方で、自分の意見に自信が無く、周囲に確認してから発言する姿が見られる。 そこで、身近な商品を題材に個人で考える時間や他者との意見交流を取り入れ、企業が競争する理由や独占・寡占が消費者に与える影響について考察し、自分の言葉で表現できるようにする。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

企業が競争することで、価格が下がったり、商品の品質が良くなったりする。独占や寡占によって競争が弱まると、消費者が不利益を受ける可能性があるため、企業同士が競争することは必要である。

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人や企業の経済活動における役割と責任、企業間の競争や独占について理解している。 社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について理解している。	個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し，表現することができている。 社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し，表現することができている。	個人や企業の経済活動における役割と責任について、よりよい社会の実現に向けて、主体的に考えようとしている。 社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、よりよい社会の実現に向けて、主体的に考えようとしている。

４．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点	時	学習内容	評価の観点
1	生産活動とそのしくみ	思・判・表	6	企業活動と景気の変動	思・判・表
2	株式会社のしくみと企業の社会的責任	知識・技能	7	働く意味と労働者を支えるしくみ	主体的
③ 4	企業の競争と独占の問題	思・判・表 主体的	8	変化する雇用のかたち	知識・技能
5	グローバル化する経済と現代の企業	主体的	9	女性の働く環境と高齢者雇用	主体的

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
	めあて：企業はなぜ競争する必要があるのか、消費者への影響と結びつけて説明しよう		
導入 （５分）	めあての確認 自分の好きな商品や、普段よく購入するものについて考える。 ★アイス ★お菓子 ★飲み物	≪予想される生徒の反応≫ 「コーラ」「ハーゲンダッツ」「ポッキー」 生徒にとって身近な商品を取り上げ、発言しやすい雰囲気をつくる。	

展開１ （２０分）	**◎企業が商品を選んでもらうための工夫について考える。** 好きな商品を選んだ理由について、グループで話し合い、意見を発表する。 企業が利益を得ようとする理由について考え、資本主義経済の仕組みを理解する。 企業は商品を選んでもらうために、競争をしていることを確認する。	≪予想される生徒の反応≫ 「値段が安いから」「美味しいから」 商品を選ぶ理由について、多様な意見を出させ、価格や品質などに着目させる。	商品を選ぶ理由について、グループで意見を共有しているか【思考・判断・表現】
展開２ （２０分）	**◎企業間の競争が無くなった場合について考える。** 商品を販売する企業が１社だけになった状況を想定し、企業側になったつもりで、消費者への影響を考える。 独占・独占価格について確認する。 寡占・価格カルテルについて確認する。	身近な商品の例を用いて、競争相手がいない状況を具体的に想像させる。 価格が上昇するとは限らないことに留意し、企業間の競争が無くなることで、消費者の選択肢や価格に影響が生じる可能性を考えさせる。 市場を支配する企業の数に着目させる。 価格カルテルのニュースを提示し、価格カルテルが消費者に与える影響に着目させる。	消費者に及ぶ影響について考え、自分の言葉で表現しているか【思考・判断・表現】
まとめ （５分）	本時の学習を振り返り、なぜ企業は競争する必要があるのかを『消費者』の語句を用いて、自分の言葉でまとめる。	企業が競争する必要性について、価格や品質・消費者への影響などを踏まえ、自分の言葉でまとめられるようにする。	競争が必要な理由を、消費者への影響と関連付けて自分の言葉で表現しているか。【思考・判断・表現】

理科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	理科	学年・組	第３学年２組	場所	第３学年２組教室
単元名	地球と宇宙　（第３時／全６時）				
本時の目標	・太陽系の惑星の特徴を複数の視点から比較し、共通点や相違点を見いだす。 ・太陽系の惑星を比較・分類した結果をもとに、それぞれの特徴や惑星の種類について考察する。				
本時の評価規準	・太陽系の惑星の特徴を理解している。 ・惑星の特徴を比較し、共通点や相違点を見いだしている。 ・惑星の特徴について、根拠をもって自分の考えを表現している。				
本時の判断基準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて	
	思考・判断・表現	惑星の特徴を複数の視点から比較し、共通点や相違点を説明している。	惑星の特徴を比較し、見つけている。	比較する視点（大きさ・表面・大気など）を示し、資料から共通点や相違点を見つけられるようにする。	
	主体的に学習に取り組む態度	惑星について進んで調べ、他者の意見を取り入れながら自分の考えを深めている。	惑星について調べ、自分の考えを深めている。	調べる内容や手順を具体的に示し、友達と協力して活動できるようにする。	

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	太陽系の惑星を複数の視点で比較し、共通点と違いを根拠とともに説明しよう。【探究・思考型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	本時は、調べた惑星の特徴を比較・考察し、太陽系全体の特徴を捉えることをねらいとする。生徒は必要な情報を調べることはできる一方、意見交流が少なく、得た情報を関連付けて考えを深めることに課題がある。そこで、惑星の特徴を共有した上で、複数の惑星を同じ視点から比較し、「比較すると何が言えるか」を考えさせる。他者の考えを取り入れながら、太陽からの距離と惑星の特徴との関係を見いだし、太陽系の特徴を自分の言葉で説明できるようにする。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

比較すると太陽に近い惑星と遠い惑星では、大きさや構成物質などに違いがあることが分かった。太陽からの距離が惑星の特徴と関係していると考えられる。

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
太陽系を構成する天体の特徴や、地球と太陽系の関係について理解するとともに、天体の観察や資料から必要な情報を読み取っている。	天体の特徴や動きについて、観察結果や資料をもとに比較・関連付けながら考察し、共通点や相違点を根拠をもって表現している。	天体や宇宙について関心をもち、進んで調べたり考えたりしながら学習に取り組んでいる。

４．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点	時	学習内容	評価の観点
1	太陽と月について調べ、地球から見た太陽や月の特徴を理解する。	知識・技能	4	恒星と銀河系について学び、太陽が恒星の一つであることを理解する。	知識・技能
2	太陽系の天体について調べ、惑星の種類や特徴を理解する。	知識・技能	5	銀河系や宇宙の広がりについて調べ、宇宙の構造や広がりについて考える。	思考・判断・表現
3 本時	惑星の特徴を比較し、惑星による違いや共通点について比較し考察する。	思考・判断・表現	6	学習したことをもとに、宇宙の中の地球についてまとめ、振り返る。	主体的に学習に取り組む態度

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
	めあて：太陽系の惑星を複数の視点で比較し、共通点と違いを根拠とともに説明しよう。		
導入 （５分）	[前時の復習]太陽系の惑星には、どのような惑星があったか。 [予想]８つの惑星の中で似ていると思う惑星は？	〇惑星の名称や特徴を思い出せない生徒には、前時の資料を確認させる。	
展開１ （１５分）	[発問１]8つの惑星に共通する特徴は何か。 [発問２]８つの惑星の違うところは？ [活動１]データをもとに8つの惑星を分類する。（個人）	◇大きさ、表面の様子、構成物質、大気、太陽からの距離など、複数の視点から比較させる。 〇比較する視点を示し、資料から共通点や相違点を見つけられるようにする。	思・判・表 惑星の特徴を比較し、共通点や相違点を見つけている。 （ワークシート）
展開２ （２０分）	[活動２]分類したものを班で共有する。 [活動３]班で共有したものを、全体で共有する。	◇「なぜその分類にしたのか」を説明させ、データを根拠にした意見交流となるようにする。 ◇ほかの人の意見をしっかり聞かす。	思・判・表 複数の視点から惑星を比較し、根拠を示して共通点や相違点を説明している。（ワークシート） 主体的 他者の考えを取り入れながら、自分の考えを深めている。 （ワークシート）
まとめ （１０分）	振り返り 振り返りの共有	本時のめあてに戻り、どの視点で分類をしたか、分類した結果から、惑星の特徴についてどのようなことが分かったかを80文字程度で振り返る。	太陽系の惑星の共通点と違いを振り返っている。 （思考・判断・表現）

英語科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	英語科	学年・組	第３学年３組	場所	第３学年３組教室・分割A教室
単元名	仮定法　If I had ～, I would(could) ～. If I were ～,I would～.　（第３時／全３時）				
本時の目標	・　仮定法の文法ポイントを理解して、利用できる ・　会話の流れを理解し、正しい仮定法の文を自分で考えて作ることができる。				
本時の評価規準	・自分で作成した英文を発表することができる。 ・文法のルールを理解し利用できる。 ・自分で考えて仮定法の文を考えることができる。				

本時の判断基準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて
	思考・判断・表現	3コマ漫画の話の流れを理解し、適切な仮定法を使った文を適切に作ることができる。	3コマ漫画の話の流れを理解し、適切な仮定法を使った分を相談や調べながら作ることができる。	3コマ漫画の話の流れを説明し、どのような文がいいかペアと相談し、仮定法を使った英文を作る準備を一緒に行う。
	主体的に学習に取り組む体動	自分で話の流れを理解しようと試み、仮定法の文法ルールに基づき英文を作ろうとしている。	ペアと協力しながら、話の流れを理解しようとし、協力して英文を作ろうとしている。	ペアとの対話とPCの使用ができるよう支援する。

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	3コマ漫画の状況を読み取り、場面に合う仮定法の英文を考えて書こう。　【知識・技能獲得型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	自分の力や、ペアと協力しながら課題に取り組むことができる生徒が多い。しかし、文法の問題に取り組むとなると、苦手意識もあり、進みが悪くなる生徒も少なくない。今回は3コマ漫画を利用し、英語で書かれた話の流れを理解し、場面に合った仮定法を使った英文を作る活動を行う。ペアとの交流を通して、主体的に活動に取り組む姿勢を育てるとともに、どのような話の流れで仮定法を使った文を利用するかを理解する機会を作りたい。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

現実とは違う場面を踏まえて、学習した仮定法の文法を使用し正しく文章を作ることができた。また、クラスメイトが作った様々な仮定法の英文を見ることができた。

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
どのような場面で仮定法を使うか理解する。 仮定法の文法ルールを理解する。	文法ルールを運用できる。 自分の考えを仮定法を使った英文で書ける。	積極的に活動や発言を行い、主体的に学習している。

４．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点	時	学習内容	評価の観点
1	仮定法　If would(could)	知識・技能			
2	仮定法　I wish I would	知識・技能			
3 本時	仮定法3コマ漫画 【本時】	思考・判断・表現			

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
めあて：3 コマ漫画の状況を読み取り、場面に合う仮定法の英文を考えて書こう。			
導入 （１０分）	「もし八尾市長になればどうしたいか」をペアで日本語で考えさせる。	・ペアで自分の意見（日本語）を出し合う。何人かあてて意見を全体で共有。	・積極的にペアと対話している。意見を出せている。（主）
展開１ （５分）	仮定法の文の音読	・仮定法の例文を読み競争する。読む前に一度音読の練習をしてから活動を行う。 ・まだ文法のルールに不安がある生徒もいるので、マネして音読するように伝える。	・積極的に音読している。（主）
（１５分）	（If I ～,I would(could)～. If I were ～,I would～.の復習とライティング。）	パワーポイントで解説・復習を行う。 ・解説後、導入で聞き出した自分の仮定法の文を英語で書く。（PC使用OK）	・文法ルールを理解している。ルールを意識して演習をしている。（知）
展開２ （１５分）	（PPTに映される3コマ漫画をみて、自分でセリフをいれる。）	ロイロで配られた英語の3コマ漫画の最後のコマのセリフを前後の英文から推測して書く。〇意味をPCで調べることは可能。	・ペアと協力し調べながら演習をしている。（主） ・文脈に合った適切な英文を書いている。（思）

まとめ （５分）	仮定法の文法ルールの振り返り 状況に応じた英文が書けたこと		今回学習したポイントを理解している。（思）

数学科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	数学科	学年・組	第３学年４組	場所	第３学年４組教室(B)・分割F教室(A)
単元名	６章　円の性質　（第１時／全４時）				
本時の目標	・円周角と中心角について、具体的な図形を観察・測定する活動を通して、同じ弧に対する円周角と中心角の大きさの間に一定の関係があることに気付く。				
本時の評価規準	・円周角と中心角の大きさを測定・比較する活動を通して、同じ弧に対する円周角と中心角の関係を見いだし、自分の言葉や式を用いて表現している。				

本時の判断基準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて
	思考・判断・表現	同じ弧に対する円周角と中心角の関係を見いだし、その関係を言葉と式の両方を用いて、根拠を明らかにして説明できる。	同じ弧に対する円周角は中心角の半分になることを見いだし、言葉や式を用いて表現できる。	同じ弧に対する円周角は中心角の半分になることを見いだし、式を用いて表現できる。
	主体的に学習に取り組む態度	自分なりの予想をもって主体的に測定・比較し、予想を確かめるとともに、「なぜ半分になるのか」などの新たな疑問をもち、次の学習につなげようとしている。	円周角と中心角の関係について予想をもち、測定・比較を通して確かめようとしている。また、学習を振り返り、分かったことや疑問を表現している。	円周角と中心角の関係について予想をもち、測定・比較を通して班のメンバーと一緒に確かめようとしている。

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	円周角と中心角には、どのような関係があるのだろうか。　【探究・思考型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む。	これまでの図形の学習を通して、角の大きさを求めたり、図形の性質を利用したりする経験を積んできている。一方で、図形の性質について、既に示されたことを利用することには慣れていても、図形を観察して自ら規則性を見いだしたり、その関係が成り立つ理由を説明したりすることに難しさを感じる生徒もいる。実際に角を測定して比較する活動や、友達との交流を通して、自分の予想を確かめながら性質を捉えられるようにすることが重要である。指導に当たっては、教師が初めから「円周角は中心角の半分である」と提示するのではなく、生徒が図形を観察し、測定し、比較する活動を通して、その関係を自ら見いだせるようにしたい。さらに、単に「半分になる」という結果を確認するだけでなく、「本当にいつでも半分になるのか」「なぜ半分になるのか」という問いを残すことで、次時以降の円周角の定理の証明へとつなげていく。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

複数の違う弧に対する円周角中心角の関係を測定したが、どの関係も中心角は円周角の２倍の大きさとなった。どんな場面でも、中心角と円周角の関係が２倍の関係となるのか気になる。

3．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
円周角の定理の関係を理解し、正しく求められる。	図形の関係に着目して、なぜその角度になるのかを筋道立てて説明できる。	図をかいたり、角度を測ったりしながら、性質を見いだそうとしている。

4．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点	時	学習内容	評価の観点
1 本時	円周角と中心角の関係について調べ、その関係から言葉や式を用いて明らかにする。	思考・判断 主体的	4	円の性質を利用し、問題の解決を図る。	主体的 思考・判断
2	円周角と中心角の関係を証明し、定理を利用して角度を求められる。	知識・技能 思考・判断			
3	円周角の定理の逆を理解し、４点が同一円周上にあることを判断できる。	知識・技能 思考・判断			

5．本時の学習過程

Bクラス	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
	めあて：円周角と中心角には、どのような関係があるのだろうか。		
導入 （１０分）	計トレをする。 円を提示し、「中心角と円周角にはどんな関係がありそうか」と考える。	〇既習事項の確認をする。 ・円周角の説明をする。 ・一人で予想させる。	主体的 (計トレ) 主体的 (生徒の発言・観察)
展開１ （１５分） 展開２ （１５分） 展開３ （５分）	複数の円を用意し、そこに中心角と円周角を作図し、測定する。 測定結果を表に整理し、中心角と円周角の関係を考える。 各グループの結果を発表し、共通する関係を確認する。 円周角と中心角の関係をまとめる。 ①「同じ弧に対する円周角と中心角の場合、円周角は中心角の半分である。」	・実際に測定させる。 ・生徒が測定結果から関係を見いだせるよう、複数の図形を提示し、中心角と円周角を比較させる。 ・ロイロノートに提出し、プロジェクターで共有する。 ・その他の関係を見つけた場合は、まとめに書く。 ・特に、「円周角の弧が中心角の弧の２倍のとき、角度は等しくなるなどが予想される。」	思・判・表 (グループ交流の発言・行動の観察) 思・判・表 (グループ交流の発言・発表)
まとめ （５分）	本時の学習について振り返る。	・関係をまとめることで、理解を深める。	主体的 (授業の振り返りの記述)

Aクラス	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
めあて：円周角と中心角には、どのような関係があるのかを考えよう。			
導入 （１０分）	計トレをする。 ・円周角の説明をする。 ・円を提示し、「中心角と円周角にどんな関係がありそうか」を考える。一人で予想させる。	〇既習事項の確認をする。 ・円周角の説明をする。 ・一人で予想させる。	主体的 （計トレ） 主体的 （生徒の発言・観察）
展開１ （１０分）	複数の円を用意し、そこに中心角と円周角を作図し、測定する。 測定結果を表に整理し、中心角と円周角の関係を考える。	・実際に測定させる。 ・生徒が測定結果から関係を見いだせるよう、複数の図形を提示し、中心角と円周角を比較させる。	思・判・表 (ワークシート)
展開２ （１５分）	結果を発表し、共通する関係を確認し、なぜそうなるのかを考える。	・ロイロノートに提出し、プロジェクターで共有する。 〇三角形の内角と外角の関係を意識させる。	思・判・表 (交流の発言・発表)
展開３ （５分）	円周角と中心角の関係をまとめる。 ①「同じ弧に対する円周角と中心角の場合、円周角は中心角の半分である。」	・その他の関係を見つけた場合は、まとめに書く。	
まとめ （１０分）	本時の学習について振り返る。	・関係をまとめることで、理解を深める。	主体的 (振り返りシート)

音楽科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

教科	音楽科	学年・組	第３学年５組	場所	４階　音楽室
単元名	歌詞の内容を理解し、歌唱表現を工夫しよう　　合唱曲「糸」　　（第２時／全３時）				
本時の目標	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関りを理解し、歌唱表現を工夫して歌う ・音楽活動を楽しみながら、主体的、協働的に取り組む				
本時の評価規準	・曲想と音楽との構造や歌詞の内容との関りを理解している ・旋律、強弱、曲の特徴や雰囲気を感受し、歌唱表現を工夫している ・音楽活動を楽しみ、主体的、協働的に学習活動に取り組もうとしている				

本時の判断基準	評価の観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	支援を要する生徒へのてだて
	思考・判断・表現	・内容から感じ取ったイメージを理解し、思いや意図をもって表現の工夫につなげている	・曲の雰囲気を感じ、歌詞や曲想をいかした工夫をしている	・楽曲に対する、自分のイメージや考えを持てるよう声かけをする
	主体的に学習に取り組む態度	・工夫した表現をするため、言葉の発音や強弱を工夫している	・主体的、協働的に活動している ・強弱や言葉の扱いの工夫をしている	・パートでの対話を促す

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	歌詞の内容や曲の特徴を捉え、思いが伝わる歌唱表現を工夫しよう　【探究・思考型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	*教材観、生徒観、指導観を含む。 作詞、作曲者「中島みゆき」の楽曲は常に時代をリードし、親しみやすく世代を超えて歌い継がれている。合唱曲「糸」は不安な時代を生きていく中、歌詞の中に優しさや温かみも感じられる名曲である。 単に歌うのではなく深い歌詞の意味や作曲者の思いを読み取り、感じたことや思いを表現できるように取り組めるようにしたい。落ち着いて授業を受けることができる生徒たちではあるが、歌う時や意見を出す際など常に周りを気にし、受け身で消極的である。この学年は、1年次より学年合唱コンクールを行ってきた。「糸」は今年度の３年合唱コンクール課題曲に考えている。 歌唱活動において、これまで「姿勢、目線、発音」を基本に指導してきた。本時は学級での合唱練習の導入としての学習をおこなう。曲の内容や深い歌詞を理解し、生徒が自発的に心の中からの思いが聞き手に伝わる音楽表現を目指す指導ができればと考える。

２．期待する振り返りの好例（めあてをふまえて）

・歌詞や曲想を味わい、考え、進んで取り組むことができた。

・旋律、強弱等と、歌詞や曲の背景、イメージなどと関連付けることができた。

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関りを理解している ②　創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音などの技能を身に着ける	①　旋律、強弱を知覚し、曲の特徴や雰囲気を感受しながら、知覚したこととの関りについて考え、思いや意図をもっている	①　曲想と音楽の構造や歌詞の内容などに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に学習活動に取り組もうとしている

４．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点
1	・作曲者の思いや曲の背景を知る ・歌詞の内容や曲想を感じ取る ・ユニゾン部分を歌う。	知①　記述・観察 態①　記述・観察
2 本時	・前時を振り返り、パートの音程をとる。 ・曲の特徴や歌詞を基に曲にふさわしい表現の工夫を考える。 ・キーワードとなる歌詞の意味の理解。 ・声の出し方、言葉の発音などの関係を意識して歌う	知①　記述・歌唱 知②　歌唱 思①　観察 態①　記述、観察
3	・歌詞と曲想の関わりを感じ取る。 ・歌詞を比較し表現を工夫する。 ・旋律や強弱など意識し表現を工夫する	思①　記述・観察 態①　記述・発言

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
導入 （１５分）	ウォーミングアップ、校歌斉唱。 １，めあての確認 歌詞を読む。　パートの復習	姿勢、目線、発音に気を付ける。 ・前時を振り返り、楽曲の持つ雰囲気やイメージを思い浮かべ歌う。 プリント記入（曲の特徴をつかむ）	態　① 前時までを振り返り、曲にふさわしい歌い方をしているか。

めあて：歌詞の内容や曲の特徴を捉え、思いが伝わる歌唱表現を工夫しよう

展開１ （１５分）	２，めあてに向けての活動。 ①　キーワードとなる歌詞の意味にはどんな思いが込められているだろうか。 ②　音のダイナミクスの確認。 ③　ふさわしい表現や歌詞に合う歌唱表現に必要なのは？	・強弱や言葉の意味（キーワード）や発音に注意して曲にふさわしい表現を考える。　＊強弱 ＊歌詞の発音 ・単調にならないようにするためには？ ＊○○に気を付ける ○強弱や歌詞にふさわしい表現について話し、表現を求めることができるようにする。	思　① 楽曲の内容から感じ取ったイメージを表現の工夫につなげているか。
展開② （１０分）	④　パートの役割を考える。 ・１、２番との対比について ・変拍子について	・パートの役割を考える （主旋律、オブリガート、ハーモニー） ○曲の雰囲気について話しながら歌詞や曲想を生かした工夫ができるようヒントを与える。 ○ 変拍子の感じ方（指揮で）	態　① 主体的、協働的に活動にとりくんでいる。
まとめ （１０分）	３、まとめる **歌詞に合う歌唱表現にするために抑揚（言葉の発音）や強弱に気をつける。** 4、学習したことを振り返る。 ・全曲を通してうたう。	・強弱、発音、パートの役割を考え、それらを生かして歌うよう促す。 ・生徒の歌いはじめたときからの変化や思いを伝える。	